

保護者の皆様

豊能町立東能勢小学校
校長 高橋 弘樹

令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の結果および今後の取り組みについて

深秋の候、保護者の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育活動推進にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月18日(火)に実施しました6年の「全国学力・学習状況調査」結果分析を行いました。当該学年の6年生児童には個人結果を返却しましたが、本校全体の結果につきまして概況を報告いたします。本校においては調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで良い・悪いを判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取組みを進めてまいります。ご家庭でも話題にさせていただき、学習の参考としていただきますよう、よろしくお願い致します。

本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成19年度より実施されています。今年度の調査は、国語・算数と児童質問紙(生活習慣や学習に対する意識等の調査)です。問題や質問紙の内容は、国立教育政策研究所のホームページ(www.nier.go.jp)で公表されています。また、豊能町の結果概要と分析、今後の取り組み等は、町ホームページ(www.town.toyono.osaka.jp)に公開されていますのでご覧ください。なお、この調査における結果は、児童が身につけるべき学力の特定の一部であることにご留意ください。

1. 学力調査の結果

(1) 国語

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。「書くこと」の領域においては、大阪府を少し上回り、全国は少し下回った。

正答率が高く・国との差が少ない問題

- 1二(記述式問題) 大阪府の正答率24.2%に対して、本校25.0%と上回っている。
- 1三(2)イ(選択式問題) 全国の正答率93.1%に対して、本校93.8%と上回っている。

正答率が低く、国・府との差が大きい問題

- 記述式問題については、全体的に無解答率の高さが目立つ。
- 1二31.3%、1三(1)ア、1三(1)ウ、3二はいずれも25%と高かった。
- 記述式問題の正答率が低く、2四は全国の正答率と比べて約20%の開きがある。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・児童が興味・関心を持ち、学習する楽しみや意義を見出せるような授業改善を行っていくことで、学習意欲の向上を図る。
- ・朝読書の時間や図書的时间・国語の時間等に読み聞かせをすることで、多様な文章表現に触れ、語彙力を高める。
- ・朝国語の時間に、『〇〇作文』や『写真を見て吹き出しをうめる問題』等に取り組むことで、楽しみながら文章を書くことに慣れさせる。
- ・国語の授業で物語文を読んで感想を書いたり、説明文を読んで自分の考えを書いたりする言語活動を積極的に取り入れる。
- ・自主学習ノートの取り組みを全学年で実施し、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけられるようにする。

- ・漢字学習を中心に、タブレットドリル等の ICT 教材を活用し、一人ひとりの理解力や苦手分野に応じて個別最適化させた学習課題を提供し、基礎・基本の習熟を図る。
- ・記述式問題においては、問題文から読み取った情報を分類・整理・選択する力や、「方法の説明」「理由の説明」等について根拠をもとに記述する力が求められている。これは、現行の学習指導要領「資質・能力の三つの柱」を背景に、その育成度合いや定着状況を見取るためのものといえる。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善につなげていくことが大切だと考える。

(2) 算数

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。

正答率が高く、国・府との差が少ない問題

- 1(1)、1(2) 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる」問題では、無解答数が0であり、全国、大阪府の正答率との差が10ポイント未満であった。日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について、規則性を見つけることができていた。
- 3(2) 全国平均正答率も低い問題だったため、決して正答率が高かったわけではないが、全国平均との差が比較的少なかった理由として、日常生活の場面を解釈することができたことがあげられる。

正答率が低く、国・府との差が大きい問題

- 平均正答率は全国平均、大阪府平均を下回った。プラス面で挙げた問題以外の正答率は、全国、大阪府の正答率と10ポイント以上の差がある。
- 1(4) 一の位が0の二つの2位数について乗法の計算について誤答が多かった。九九などの基本的な計算を基にして計算できるはずだが、基礎・基本の定着が足りないと思われる。
- 2(2) 「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題では正答率が75%であったのに対し、無解答率が25%であった。合わせると100%なので、解答した児童は全員正解し、それ以外の児童は全て無解答であったことを意味している。
- 2(3)、2(4) この2問は、「正三角形の角の大きさ」や「三角形の面積の求め方」等、図形の性質について理解しているかどうかの問いであるが、いずれも正答率は0%であった。
- 3(1) 問題文の読み取りが不足していたと思われる。
- 3(3) 加法と乗法の混合した整数の計算で、()を用いた整数の計算をすることはできているが、加法と乗法の混合した整数の計算では、乗法を先に計算するということが理解できていなかったと考えられる。また、①と②の答えが等しくなるということも理解できていないと考えられる。
- 3(4) 商の十の位に立てた「2」を図と関連付けて考えることはできているが、「2」が60を3等分した結果と捉えられなかった児童が多かったと考えられる。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・計算の技能といった基礎・基本の定着に関しての課題も見られるため、単なる計算練習を繰り返し行うだけでなく、それを活用する場面や目的、状況等を設定し、その中で変化させながら繰り返し学習することも大切にしていく。
- ・学習したことを生かし、日常生活の場面で算数を使って問題解決をすることによって、学習内容を深めたり、生活とのつながりを実感したりできるようにしていく。
- ・図形の性質について意味を理解したり、図形の構成要素について説明したりする力を育成する。
- ・無解答率が高いことが本校の大きな課題である。選択問題でさえ、5問出題されたうち、4問の無解答率が10%を超えている。課題に対し、最後まで一人でじっくりと取り組む力をつけなければならない。

2. 学習状況調査の結果

特に国との差が大きかったもの・学校教育目標に関連のあるものについて記載

【基本的な生活習慣、学習習慣・学習環境等】

質問項目	本校	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	68.8	81.0
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、 読書 をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)【30分以上】	50.1	37.3
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、 勉強 をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】	43.8	57.1
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、 勉強 をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】	18.9	52.5
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	56.3	70.7

【挑戦心・達成感、規範意識、自己有用感】

質問項目	本校	全国
自分には、よいところがあると思いますか	68.8	83.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	95.9
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	93.8	96.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	50.1	85.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	56.3	76.5

【地域や社会に関わる活動の状況等】

質問項目	本校	全国
今住んでいる地域の行事に参加していますか	68.8	57.8

【学習に対する興味・関心や授業の理解度】

質問項目	本校	全国	
国語	国語の勉強は好きですか	37.6	61.5
	国語の勉強の内容はよく分かりますか	68.8	85.7
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	100	92.8
算数	算数の勉強は好きですか	56.3	61.4
	算数の勉強の内容はよく分かりますか	75.1	81.2
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.8	93.3
英語	英語の勉強は好きですか	75.0	69.3
	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	68.8	52.5
	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどの ICT 機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど)	25.1	46.5

【授業改善に関する取り組み状況】

質問項目	本校	全国
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	81.3	63.7
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	56.3	78.8
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	81.3	74.4
5年生までに受けた授業は、 <u>自分にあった教え方</u> 、教材、学習時間などになっていましたか	75.1	82.9
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	81.3	81.8
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、 <u>次の学習につなげる</u> ことができていますか	62.6	77.4

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	56.3	74.8
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	43.8	77.2
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	62.5	83.6

【課題改善に向けての取り組み】

- ・「学びのスタンダード（学習ルール）」をもとに、全ての児童が活躍できる授業改善に取り組み、基礎・基本の定着や学習意欲の向上をめざす。
- ・「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践する。
- ・今年度の研究テーマ「『ことば力』を育む魅力ある授業づくり」のもと、総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習内容を充実させ、児童の学習意欲の向上、思考力や論理的表現力の育成を図る。
- ・学級活動、たてわり活動、児童会活動等の取り組みを通して、自己有用感や自己肯定感を高められるようにする。
- ・地域の方との交流・協働の学習を通して、地域への愛着心を育むとともに、キャリア教育の視点からのアプローチを充実させる。

3. おわりに

今回の調査の結果を分析し、課題改善に向けての取り組みを検討しました。課題改善は一朝一夕に成果が出るものではないですが、日々の実践の積み重ねによって、何年もかけて徐々に成果としてあらわれてくるものだと考えています。学校全体で課題改善に向けて取り組んでいきます。

学習状況調査結果のなかでも自分の意見や考えをまとめることが全国に比べ苦手としている児童が多いように受け止めています。まずは、1年生から基礎基本の積み上げや学習意欲の向上をめざし、「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践を行ってまいります。それに加えて、自分の意見をまとめ友達と交流し、さまざまな考え方にふれていけるような授業づくりをめざします。

また、学級活動、縦割り活動等の取り組みをとおして自己肯定感を高められる活動も行います。そして、地域のかたにご協力をいただき、「とよの未来科～東能勢 style～(※)」をとおして、課題解決に向けて自ら考えたことを発表する活動、探求し自分の考えと仲間との考えの違いを交流する活動、併せて、地域への誇りを育んでいけるような活動を積極的に進めてまいります。学校でどのような取り組みをしたのかについて、ご家庭・地域においても興味関心をもって聴いていただくことで、子どもの活動への意欲が高まり、また、共感してもらうことで自己肯定感も高まります。ご家庭・地域のみならずと連携しながら、子どもたちの成長への取り組みを進めてまいりたいと考えています。東能勢小中学校の取り組みをブログ等でタイムリーに発信していますのでぜひご覧ください。今後とも学校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※「とよの未来科」とは、探究的な見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験、横断的・総合的な学習を行うことを通して、生活の場である身近な地域「とよの」への理解を深め、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力の育成をめざす学習のことです。「とよの」の教育資源を活用しながら学習し、様々な人々と触れ合う機会や体験を重視した活動を通して、「とよの」と自分に対する自信と誇りの育成をめざしています。

東能勢小中 ブログ

検索



東能勢小中学校の活動を紹介します！